

全国トップレベルの反収を誇る 愛知県西尾市で冬春きゅうりの機械選果スタート — 翌6月までに**2,500ト**の出荷めざす —

西尾市内の冬春きゅうり生産者で組織するJA西三河きゅうり部会(安藤廣宣部会長、部会員30人)は、11月3日よりJA西三河あぐりセンター池田で令和7年産冬春きゅうりの機械選果を開始します。同部会は**10アールあたりの収量24.5ト**と全国トップレベルの技術力を誇っています。

露地栽培では夏に収穫されるキュウリですが、西尾市は加温したハウスで11月から翌年6月にかけて栽培する『冬春きゅうり』の栽培が盛んで、年間約2,550トを生産する大産地。今年も11月初めから徐々に出始め、11月中下旬より本格出荷を迎えます。

選果場にある「キュウリ選果機」は、キュウリの曲がりや太さ・長さをカメラで瞬時に判別し、等階級別を選別。パート選果員は選果ラインにキュウリを並べたり、機械により等階級に選別されたキュウリを箱詰めする作業に取り組めます。



▲カメラで1本1本のキュウリの等階級を判別

■取材対応日■

【日時】11月4日(火) 午前9時30分集合

【集合】JA西三河 あぐりセンター池田 (西尾市一色町池田東八反15)

※ 取材を希望される報道機関の方はJA西三河企画課の尾形までご連絡ください。

※ 機械選果は1時間程度。袋詰め機は11月下旬より稼働のため当日は撮影いただけません。ご了承ください。

【作柄】(10月22日現在)

定植は9月下旬から10月上旬にかけて。定植後はやや曇雨天の日が多く、日照量が少ない状況です。出だしの作柄は11月までの日照量に大きく左右されるため、やや少なめの出荷量となる見込みです。



【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河 (西三河農業協同組合)

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15

企画室企画課 広報担当: 尾形

TEL: 0563-56-5214 担当者携帯: 070-1414-6818

HP: <https://www.ja-nishimikawa.or.jp/>

Eメール: kikaku@ja-nishimikawa.com



《JA西三河ホームページ》
その他のニュースリリースは
こちらからご確認いただけます

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関およびJAグループプレスリリース説明会あてに発出しています。
また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料(ニュースリリース)」ページにも掲載しています。

日本のキュウリ生産をリードする西尾市

～10㎡あたりの収量は24.5ト！全国トップレベルの反収を誇るヒミツ～



環境測定器「あぐりログBOX」（白い箱）と、スマートフォンで温度・湿度などを確認します

■西尾のキュウリ生産の特徴

JA西三河きゅうり部会は、施設園芸の生産者部会の中でも情報共有や技術革新にいち早く取り組み、他部会に先駆けて農業用ICTツール導入しています。部会員全員が環境測定器「あぐりログBOX」と「履歴ウェブ」を導入。ハウス内の温度・湿度・CO2濃度の推移や、農薬・肥料の施用の情報を共有し、産地の生産技術の高度化を図っています。

データを基にした部会員同士の情報交換も盛んで、若手就農者がベテラン農家並みの収量を達成することも。2014年から2018年にかけての反当たりの出荷量は15%アップしており、今年度は生産目標2,500ト・販売目標10億円を掲げて取り組みます。

今年で取組み10年目！

ICTを活用し「養液栽培※」の実証試験

JA西三河きゅうり部会は県やJAあいち経済連、種苗会社と連携を取り、農業情報通信技術(ICT)ツールを活用した養液栽培の実証試験に取り組んでいます。

※「養液栽培」とは、肥料を水に溶かした培養液で栽培する方法。

国内でのキュウリ生産は土耕栽培が主流であるため、いまだ普及していないのが現状

「養液栽培」で得られた地下部の環境データを産地で共有

土耕栽培へフィードバックして
部会全体のさらなる収量向上を目指します！

「あぐりBOX」が24時間集めたハウス内の環境データと、植物体(キュウリ)が吸収した水や肥料の量を把握することで、生育状況を予測して生育の最適化を実現！

西尾市では「JA西三河きゅうり部会」を組織するほか、JAあいち中央胡瓜生産部会とともに共販組織「西三河冬春きゅうり部会」を組織し、共通のブランド『三河みどり』の名前で販売しています。

【共販組織情報】（令和7年度）

名称：西三河冬春きゅうり部会

部会員数：82人

（西尾市のJA西三河きゅうり部会、碧南・安城市中心のJAあいち中央胡瓜生産部会の2部会で構成）

出荷先：主に愛知県内の市場

出荷量：3,785ト（うち西尾市 2,120ト）

※「三河みどり」ブランドのみ（加工品用出荷等含まず）

【全国の生産概況】

全国のきゅうり出荷量：461,700ト（うち冬春きゅうり：256,000ト）

愛知県のきゅうり出荷量：12,400ト（うち冬春きゅうり：9,600ト）

データ：農林水産省 作況調査（野菜）令和5年産公表資料

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_yasai/



西三河冬春きゅうり部会のキャラクター「きゅりん。」

日本のキュウリ生産をリードする西尾市

～産地と消費者の距離を縮める取組～

■袋詰め機を令和3年作より導入

＼全国的にも珍しい取組／

画像処理(＋規格データの蓄積) ▶袋詰め ▶バックシール ▶バーコードラベル貼り付けまでを産地で行い、トレーサビリティを確立！

消費者ニーズの高い「袋詰め」を自動化し、高付加価値化することで収益向上を目指しています。袋詰めは一般的に小売店が行いますが、近年では産地で袋詰めを行うところも増えてきました。なかでも当産地では商品の画像処理から袋詰め、バックシール(赤いシール)、バーコードラベルの貼付までを選果場で行っており、全国的にも大変珍しい取り組みを行っています。



タッチレスで鮮度抜群

産地から最高の状態でお届けしています！

二次元コード付き
バーコードを貼付

販売自由度向上

鮮度向上

消費者とつながる

品質向上

栽培管理にフィードバック

袋には二次元コードを貼り、産地情報や生産者のおすすめレシピなどを紹介！産地のキャラクター「きゅりん。」などSNSを活用して、顔の見える産地発信型、の販売を行っています。



SNSで生産者
おすすめレシピを紹介



JA西三河きゅうり部会青年部の
Instagramはこちら→

【新たな取組み】スポーツ×きゅりん。「SPOKYU」

JA西三河きゅうり部会ではオリジナルキャラクター「きゅりん。」を活用したPR活動に取り組んでおり、2025年10月からは「スポーツの秋」にあわせて「SPOKYU」と名付けたグッズ販売を開始。第一週目はバスケットボール、第二週目はバレーボール、第三週目は野球、第四週目にはサッカーボールと毎週新たなデザインを公開しました。

きゅりん。グッズを通じて農業に馴染みのない若い世代にも地域農業を身近に感じてもらえるよう多角的なアプローチを展開しており、引き続きイベントにあわせたグッズ販売も検討していきます。

